社会科の窓　VOL９

令和３年８月３日
京都市立稲荷小学校　校長　吉山　茂樹

「食料生産」水産業を身近に感じさせるために！

この「社会科の窓」のキーワード，子どもと教材を近付けるために，水産業ではどのように展開していけば良いのでしょうか。その前に，高学年を多く担任をしておられる先生は，米作りが終われば，次は水産業だと思っておられる方も多いと思います。しかし，学習指導要領を見ると，以下のように書かれています。

> 国民の食生活と関わりの深い「野菜，果物，畜産物，水産物など」については，それらの中から一つを選択して取り上げるようにする。

水産業を学習しないで，野菜や果物，畜産物を取り上げてもよいのです。しかし，子どもたちの思考の視野を広げるためには，余程の理由がない限りは，水産業を取り上げると思います。ここでも，水産業をどのように取り上げるのか考えていきます。

導入で考えたのが，回転ずしです。今，多くの子どもたちが利用していると思います。つまり，身近に感じられる訳です。

日本人は，たくさんの魚を食べています。みんなも回転ずしに行って，たくさん食べていますね。グループごとにホワイトボードに書き出しましょう。どのグループが一番かな。

私は，マグロが大好きだよ。
ぼくは，エビがいいな。
私は，サーモンが好きよ。
いくらは，何の魚の卵かな？
それは，サーモンだよ！

グループごとに，一つずつ発表させ，どのグループが最後まで発表できるかを競うと俄然盛り上がります。

ここでは，代表的な魚５～６種類ぐらいでいいと思います。著作権の関係で，絵にしていますが，写真でも良いと思います。クイズが終われば，どこで水揚げされるのか調べて，白地図に書き込んでいこうという活動に移ります。その後，海流を書き入れ，主な漁港を書き入れることで，水産業のさかんな地域は，海流が影響していることをつかんでいきます。くり返しになりますが，ここでは，白地図に書き入れる活動が大切です。時間に余裕があれば，白地図を大型コピーしクラスで大きな地図を完成させることも掲示で残るので有効です。

次に，どのように魚をとって，私たち消費者に届けるのか調べていこうという次の学習過程へ移ります。

改めて，今の教科書を読んで驚いたことがあります。以前であれば，巻き網漁とかつおの一本釣りが必ず，教科書に載っていました。巻き網漁を学習した後，「なぜかつおは１匹ずつつるのか。」というのが，学習問題になりました。ところが，一本釣りが消えてしまっています。現行の教科書は，長崎県だけに焦点をあて，つくり育てる養殖・栽培漁業に重点が置かれ，学習指導要領にあるように，生産・加工・販売を関連付けたいわゆる「６次産業化」の内容なども盛り込まれています。

古い教科書はもう処分してしまったのですが，取り扱いも大きく変わったと実感しています。